

文教委員会追加資料

所管事務の調査（報告）

「「今後の市民館・図書館のあり方」に関する基本的な考え方」

資料1 第1回かわさきの図書館アイデアミーティング まとめ

資料2 第2回かわさきの図書館アイデアミーティング まとめ

資料3 かわさきの図書館アイデアミーティング開催報告

資料4 関係団体ヒアリング結果1（川崎の図書館ともの会）

資料5 関係団体ヒアリング結果2（川崎の文化と図書館を発展させる会）

資料6 関係団体ヒアリング時提供資料

「（仮称）今後の市民館・図書館のあり方」の検討について

人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について

（答申）概要

令和2年2月14日
教育委員会事務局

第 1 回 かわさきの図書館アイデアミーティング まとめ

各テーマのキーワード	
行きたくなる図書館	・ 本以外のものの貸出／横断的な部局間連携／従来のルールの見直し ・ 職業体験／サブカルチャー／POP などで読みたくなる工夫／寺子屋・塾等との連携 ・ 子どものうちに本に触れる／図書館の使い方がわかる ・ スタッフの忙しさ解消／ボランティアスタッフ ・ 企画内容にあわせた関連書籍の展示 ・ 夜も開いている図書館／時間外での貸し借り ・ 障がい者・高齢者の利用のしやすさ ・ 市民の持っている本を活用 ・ 司書の職能アピール ・ ブックカフェ／集中できる場／和やかな雰囲気 ・ 自分へのおすすめ書籍がわかる ・ 全市図書館の連携企画 ・ 展示方法を工夫 ・ 「誰にも言えない悩みのためのブックガイド」 ・ にこにこタイム（●曜日●時～●時は声出し O K）
まちに飛び出す図書館	・ 情報発信の拡充 ・ イベントに出張図書館（定期訪問型、イベント型） ・ 市内の公共施設の空室を利用／貸出カウンターがあちこちに ・ 学校図書館に相談員／学生が参加しやすい企画 ・ 電子書籍／デジタル図書館／オーディオブック ・ 検診、病院などでの P R（待ち時間の活用）
地域の”チカラ”を育む図書館	・ 全市図書館の PR 組織の立上げ ・ 地域ゆかりの著名人情報のアーカイブ（郷土文化に関わってきた高齢者からの聞取、活動の記録） ・ 個人でボランティアできる登録制度（書架整理、修理、オススメ本の POP 等）

目指す 方向性・ テーマ	良いところ	気になるところ	期待する取組 ◎ シール投票で「一番良い取組」を獲得（ひとり1枚） ● シール投票で「ほかに良い取組」を獲得（ひとり2枚）
行きたくなる図書館	アクセス性がよく、身近に感じられる ■多くの図書館は駅から近くてアクセスが良い ■「私の図書館」という気持ちになるような自宅から徒歩30分以内で行ける親近感 多様なジャンルの資料が充実している ■ベストセラー以外にも多様な蔵書と副本が多く、世田谷区にはない本もある ■中原図書館は雑誌が多様で充実している ■本屋さんには置いていない地域の郷土史資料が多い ■行政や民間などの様々な情報が見られる ■CDの貸出があること ■人気のある本が多めにある 子ども向けの本・場・サービスが充実している ■絵本がたくさんある ■宮前図書館は児童書の種類が豊富で充実している ■独立した児童図書コーナーがあることが良い ■宮前図書館に入ってすぐ左にある子ども用のスペースがオープンでわかりやすい ■図書館が学校へ行きづらい子の居場所を提供している	アクセス性や周辺環境が整っていない館もある ■川崎図書館の周辺環境について、もう少し行きやすいところだと良い ■家から遠い ■自転車で行きづらい ■車で行くのは便利だけれど、駅から遠い行きづらい ■アクセスの悪い図書館や、開館時間によって来館しづらい図書館もある 蔵書数や種類が少ない ■全国的に資料費が少なくなっており、図書館の未来が心配 ■蔵書数がまだ少なく感じる ■蔵書が古くて新しい本が少ない ■資格試験の関連資料が少ない 静かすぎるので子どもや学生は足が遠のいてしまう ■声を出してもよい時間があると良い ■子連れだとうるさくないか気になって行きづらい ■静かすぎるので、子どもや中高生は図書館から足が遠のいてしまう	固定概念を取り払い、本という枠組みを超えた柔軟なサービスがあると良い ■部局を越えて、従来の発想を変えとらわれないようになる！（◎×3枚） ■予約数は多いけれど貸出数が少ないのは、本の貸し借りの場というイメージのため、そこから脱却してもっとアピールをすると良い ■図書に限らず本以外のものも貸し出す ■宮前区の図書館はどんな感じになるか気になる。キレイな図書館で終わらせないでほしい（●×1枚） ■本の分類をもっと増やしてほしい 中高生が来たくなる企画や取組の充実 ■ビブリオバトル、バックヤードツアーや職業体験など、とくに中高生を対象にしたイベントを実施してほしい！（●×1枚） ■サブカルチャーやアニメは好きという子は多いので、きっかけとして、中高生向けのライトノベルを揃える（◎×1枚、●×1枚） ■POPを中高生の目線で書く企画を実施してほしい（●×4枚） ■寺子屋や塾と連携すると中高生との接点を持ちやすくなる（●×1枚） 子どもファーストな取組の推進 ■川崎市は子どものことを一番に考える図書館を目指す（◎×2枚、●×1枚）

	職員が親身になって対応してくれる ■職員の方が優しく、声をかけやすい ■職員は知識が豊富で、探している本を見つけやすくしてくれる ■レファレンスカウンターでいろいろ親切に対応してくれるところが良い ■幸区の図書館では来館者と職員の距離が近い ■スタッフが一生懸命でフレンドリーなところ ■リクエストを通してくれる ■図書館にない本は県、県にない本は国など、できるだけ「ない」と言わずに希望の資料や関連図書を探してくれる システムが充実していて使いやすい ■中原図書館では予約した本の受取がスムーズで便利 ■予約本を受け取れるコーナーがある ■予約してすぐに本が届き、早いと翌日に届くところが良い ■PC・スマートフォンで予約ができるところが良い ■興味のある本を図書館に行かなくてもホームページで検索・予約できる ■自動貸出機があって便利 ■システムが充実している ■借りた本は、どの図書館でも返却が可能	若い人向けの本や CD が少ない ■10代は本屋には行くが、図書館には行かない ■CDの種類が限られていて、とくに若い人向けのものが少ない スタッフがいつも忙しそうで相談しにくい ■スタッフがいつも忙しそうで相談しづらい ■職員の方が忙しいそうで声をかけづらい 開架スペースが足りないため、よく使う本も書庫に入ってしまった ■開架スペースが足りないため、本が十分に置けず、直接触れられない ■良い本やよく使う本も書庫に入っている ■絵本の背表紙が見づらい 1人あたりの貸出や予約冊数が少ない ■読み聞かせの活動を行なっていると、貸出冊数が10冊では少ない ■予約数を増やすべきか検討が必要 土日の開館時間が短い ■土日祝日も21時まで、せめて18時まで開館してほしい ■休日の閉館時間を平日と同じくらいに延ばしてほしい 予約待ちが長すぎる ■ベストセラー本の予約待ち期間が長い ■予約本の順番が、なかなか来ない	■子どものお気に入り場所になるよう図書館は楽しいと感じてもらう仕組みづくり（◎×2枚） ■もっと身近に本に触れられる機会を増やす、読書難民をつくらない取組があると良い ■小さいうちに図書館の使い方がわかるようになる取組・企画があるとよい（◎×2枚、●×3枚） ■若者、子どもたちに図書館を知ってもらう機会を設ける（◎×1枚） ■中原市民館のように子育て世代に向けて読み聞かせ（本の読み方）を教えるイベント スタッフ不足を解消できる取組の実施 ■スタッフが少なく話しかけづらいので、スタッフを補助するボランティアさんを募集する（◎×1枚、●×2枚） ■職員の数を増やしてほしい（◎×1枚、●×1枚） イベント・企画のテーマと関連書籍を紐付けて連携させてほしい ■イベントや講演会の時にゲストが紹介した本の中で、図書館にある本を会場で紹介すると借りたくなるので良い（●×1枚） 開館時間の延長や時間外でも貸し借りができる仕組みづくり ■土日祝も21:00まで、せめて18:00まで開館！（●×2枚） ■夜間まで開館時間を延長してほしい（●×1枚） ■開館時間外でも貸し借りができる仕組みにしたい（●×2枚） 障がい者や高齢者も利用しやすい図書館づくり ■障がいのある方ももう少しいろいろな図書館を利用できると良い
--	---	--	---

貸出冊数が多い

- 無料で一人 10 冊、2 週間も借りられることがありがたい
- 無料で本を借りられる
- 一度に 10 冊と多く借りられる

市民ニーズに合わせて開館時間が延長されてきたこと

- 仕事終わりに行けるくらい長く開館していて良い！ただ、分館の開館時間は短い
- 開館時間が昔と比べて長くなり、市民のニーズに対応している

本に触れたり新しい発見ができる見せ方の工夫がある

- 本の配架が手に取りやすく、新しい発見にもつながる
- おすすめ本が見やすく、本の魅力の伝え方の参考にもなる
- 少ない資源の中で本の見せ方に職員の工夫がある
- 季節に合わせた展示や本の紹介をしているため、図書館に行くだけで季節を感じることができる

人と出会える

- 本が好きな人に出会える

需要に対して、閲覧席の数が足りない

- 閲覧室が、自習に使われていることが多く、混雑している
- パソコンを利用できる場所や席が限られていることが不便
- 閲覧席の一人分のスペースのゆとりがない
- 閲覧するためのイス・机が少ない
- 閲覧席がすぐ埋まり、利用が限られる

空調や照明などの環境が整っていない

- 麻生図書館は窓が少ない
- 夏の図書館が暑い
- 照度が足りない図書館が多い

ベビーカーや車椅子が通りづらい

- ベビーカーや車椅子が通りづらい

- 健康をテーマとした高齢化対策にもなる図書館を目指してほしい

ベストセラー本などは市民から寄贈を募りみんなが読めるようになると良い

- 人気が高そうなベストセラーは、副本を購入する代わりに、前もって市民から古本を積極的に募集できると良い

司書の専門性を PR する

- 司書資格を持っている人やレファレンスの専門性をアピールする（◎×1 枚、●×4 枚）

カフェの併設や飲食可能な場所を増やしてほしい

- Book Café がほしい（●×2 枚）
- 飲食スペースの充実

蔵書やデータベースの充実

- 有料のデータベースを無料で閲覧できるようになると良い
- ニーズに応えられるくらい資料費があるといい（●×1 枚）

リラックスできる環境や集中できる場など様々な過ごし方ができる

- 音がなっても勉強や仕事ができたり、自前の PC を使えるスペースがほしい
- もっと図書館に行きたくなるように、BGM にクラシックなどを流して、和やかな雰囲気になると良い

一歩進んだパーソナライズされたサービスが受けられる

			■自分の貸出履歴や関連本、オススメ本が見られると良い ■SNS で図書館の PR や図書の相談ができる (●×1 枚) ■貸出カウンターで何気ない話やおすすめ本の紹介をしてほしい ■自由に本の話ができる場や SNS があるとよい 川崎市内の図書館全館企画の充実 ■市図書館をあげての企画を増やしてほしい 本の展示を工夫する ■本の展示を工夫する
まちに飛び出す図書館	大学との連携でより専門的なサービスが受けられる ■大学と連携することで、高価な専門書などが借りられる	全市の図書館同士の連携がなく、イベントなどの情報発信が弱い ■市内の図書館のイベントなど、交流の機会が少ない ■各図書館がやっていることが見えず、外への発信が必要 ■図書館に行っても、関連イベントの情報がわかりにくい ホームページや ICT サービスがまだ十分でない ■ホームページがわかりにくくなった ■ホームページのマイページ機能が使いづらい ■他市から借受ける本の予約もインターネットで行えるようにしたい ■ネットで団体貸出ができない ■インターネット検索で本の中身をもう少し詳しく知ることができると良い ■自動貸出機を使っている人が少ない	イベント・企画に関する情報発信の拡充 ■図書館関連のイベントや企画の情報を関心がある人に届くように発信できると良い 地域のイベントなどに自動車文庫などが積極的に繰り出すと良い ■まちに飛び出して、移動図書館をマルシェで開催できると良い (◎×2 枚) 市内の公共施設と連携してスペース不足の解消や貸出サービスの充実をはかる ■閲覧室の混雑を市民館の空き部屋などで解消できると良い (◎×1 枚、●×3 枚) ■市立の公共施設と連携して予約した本の受取ができると良い ■図書館と市民館の連携をもっと図ってほしい (◎×2 枚、●×3 枚) ■小さくていいので駅や図書館以外でも貸し借りできる場所が増えるとよい (◎×1 枚、●×2 枚)

		■アンケート結果を公開しているのが、ホームページ上でわかりづらい	学校図書館との連携 ■地域の学校と連携することで本の魅力を伝える ■市内の学校に司書や相談員がいるといい（●×1枚） ■市内の図書館の蔵書も学校図書館で検索できるとよい ■学校図書館とのつながりを強固にして、学生が参加しやすいイベントを開催する（●×2枚） 電子書籍を増やしてスペースに頼らない図書館づくり ■オーディオブックなどを活用した、スペースに頼らない図書館づくりを！ ■デジタル図書館も良いが、権利が難しそう…
地域の“チカラ”を育む図書館	市は本に対する思いや価値への理解がある ■予算をきちんと確保している ■古本の受け入れも行っていて有効利用できる 様々な特集やイベントがある ■読み聞かせなどいろいろなイベントがある ■介護などの特集棚があったり、相談したりできる ■川崎フロンターレとタイアップした特集などが中高生に伝えやすい	みんなで学べたり、ちょっと利用できたりする作業スペースがない ■中高生が一人で勉強したり、みんなで学べたりするような自習スペースがない ■勉強している人が多く、“ちょっと利用”ができない 様々な利用者を念頭に置いたサービスが十分でない ■高齢者への対応をもう少し考えてほしい ■大人のためのサービスが見えにくい ■今までの発想を変えようとしているけれど、今一歩足りない ■返却 BOX に本を入れた後、すべり台があると良い	川崎市全 13 館の PR など担当組織が立ち上がると良い ■川崎市全 13 館の PR・広報を一体的に担当組織があると良い（◎×3枚、●×2枚） ■ボランティア活動など図書館の活動をもっと市民の目の見えるところに発信したい（◎×1枚、●×3枚） 地域イベントや市内ゆかりの著名人などの情報をわかりやすく整理・アーカイブしてほしい ■川崎の作家などの人的資源を紹介するミニ博物館のような特集があると良い ■チラシがいろいろなところに点在していて量もあるため、もう少し分かりやすくなると良い（●×2枚）

第 2 回 かわさきの図書館アイデアミーティング まとめ

テーマ①ミライのかわさき図書館を利用する人、利用してほしい人を共有しよう

用事がなくても、どんな人でも使えることが大切

- 誰でも使えることが大切
- 困りごとがなくても誰でも行けることが大切

外国籍の日本在住者や海外からのビジター

- 外国籍の人だけでなく、ビジターとしての外国人

図書館に行きたくても行けない入院中や引きこもっている方など

- 図書館に行きたくても行けない長期療養中の子どもや引きこもっている方、ホームレスの方など

求職中の方

- 求職中の方

様々な障がいがある方

- 体が不自由な方だけでなく、様々な障がいのある方

広義での「子育て世代」

- 乳幼児の親から大学生の親まで、様々な子育て世代

他市から来る方

- 他市から来る方

地域ごとに利用者の属性が違う

- 地域性があるので、利用者の属性が館ごとに違う

テーマ②ミライのかわさき図書館の将来像を深めよう

※◎は、グループ内でのシール投票で、最もよい将来像に貼られたもの（ひとり1枚）。

●は、よい将来像に貼られたもの（ひとり2枚）。

行きたくなる図書館

好きなことで集まれて、楽しく共創できる

- 様々な人が行く、外から見ても楽しそうでワクワクする場所（◎×2枚）
- 図書館は夢を実現させるための場所
- 自由に話ができるラーニングコモンズ（学習場所）がある（●×1枚）
- 空いている部屋で本を中心に意見交換ができると良い（◎×2枚、●×2枚）
- 趣味など、好きなことで集まれる

地域の人・知識の情報センターになる

- 本だけじゃない！地域と知識の情報センター（◎×2枚、●×2枚）
- 地域の課題解決を支える資料がある
- 地域の人々の技術や経験を活かしたマッチング機能がある（●×2枚）

生活に必要な機能や情報が兼ね備えられて、行く目的がたくさんある

- 生活に必要な機能を兼ね備えることで、図書館に来館するきっかけになる（●×1枚）
- 生活に関する情報が得られると良い
- 本を読むだけではなく、行く目的がたくさんある図書館（●×1枚）
- 行きたくなるためのニーズや環境をつくることが大切

欲しい情報にたどり着けるように、専門性が高い司書がいる

- 司書の専門性が高い
- 知りたいことを多様な司書の情報ネットワークで対応
- 欲しい情報にたどりつけるように、知識豊富な司書がいる（◎×2枚）
- 学校図書館にも司書が複数名いてほしい

動画サイトやホームページなどオンラインコンテンツを活用した情報発信

- ホームページで特集を作る（●×1枚）
- Youtube を活用してホームページに本や活動、イベントの紹介をする
- デジタルコンテンツのアピールをする（●×2枚）
- 図書館のチラシを読みたくくなるようなデザインに

多様なバックグラウンドのある人が利用しやすいサードプレイスになる

- 身体の不自由な方のためのサービスを拡充してPRもしっかり行う（●×3枚）
- 高齢者にとっての居場所やサードプレイスになる図書館になると良い（◎×1枚、●×3枚）
- あらゆるバックグラウンドのある全ての人々が安心して利用できる図書館であることが大前提（◎×1枚）
- 電子図書館をつくり、蔵書の豊富化を図る
- 施設全体を使いやすく（◎×1枚）
- ゆとりのない家庭でも図書館を使いたくなると良い

	■ Wifi などインターネット環境が充実し、家にネットがない人でも情報を得られる のんびり過ごせる工夫や空間がある ■ 地域性を大切に、土日でも丸1日のんびりと過ごせる空間（●×2枚） ■ カフェが併設しているなどの複合型図書館だと良い ■ 駅近の図書館は行きやすく、滞在できる 子どもや若い人が、つい通ってしまう魅力的なイベントやサービスが充実している ■ 子どもや高校生に、難しい本でも読みたくなるような面白いアピールをする（●×1枚） ■ 子ども限定の読書通帳をやる（●×1枚） ■ 自由研究の時にイベントや相談窓口があると良い ■ 小さい子や若者が来たくなるイベントが豊富な図書館（◎×1枚、●×1枚） ■ 子ども向けにフロンターレ選手のオススメ本投票イベントをする 地元と連携した取り組みがある ■ 本を借りるとTポイントがたまったり、地元のケーキ屋などの割引クーポンがもらえる！ ■ “〇〇なまち川崎”と本のコラボレーションをする 季節やテーマで定期的に変化を感じられる工夫がある ■ 各館の特色を季節やテーマに沿った本でPRする ■ 並べてある本を定期的にローテーションして、毎回発見があるようにする 行政区域の垣根を超えたサービスがある ■ 行政区域の垣根を越えた貸出、本の融通
まちに飛び出す図書館	地域のイベントや近所に移動図書館がある ■ 家のすぐ近くにある移動図書館（◎×1枚、●×2枚） ■ 自動車文庫がもっと多くの場所にまわれると良い（◎×1枚、●×2枚） ■ 観光案内所やマルシェに図書館が出ていく（◎×1枚） 図書館や地域の活動を広く知らせる工夫がある ■ 図書館の理念や取組などの情報発信の拡充 ■ 読み聞かせや読書会がどこで何をやっているのか分かるマップを作成する（●×3枚） ■ 中高生の図書館に行くきっかけづくりを市民ミュージアムで行う 地域の公共施設や病院など歩いていける場所で図書館サービスが受けられる ■ 各拠点でテーマを設けながら、こども文化センターや病院と連携して図書館の本を読めるようになると良い（◎×3枚） ■ 乳幼児健診の待ち時間で本を用いて子育て関連イベントを行う ■ 長期療養中の子どもも受けられる出張図書館サービス ■ 徒歩や自転車でいける場所で本の貸出・返却ができる（●×2枚） 地域の企業と連携した取り組みが積極的に行われる ■ 川崎市の企業と、図書館が連携してPRを行う（●×2枚）

	市内の学校を巻き込んだイベントや取り組みがある ■ 学校を巻き込んだイベントを開催（◎×4枚、●×1枚） ■ 図書館の職員が市内の学校の図書委員と協働でイベントを企画する ■ 図書館のイベントを学校のホームページや放送で発信 ■ 学校への貸出しとその物流が楽にできるようになる
地域の ”チカラ” を育む図書館	子どもたちへの教育のサポートが充実している ■ 高卒認定、大学入試、資格取得など、学びの向上につながるサポートがある（◎×1枚、●×3枚） ■ 学びの向上に関わるイベントの実施や情報を得ることができる（●×1枚） ■ 児童コーナー専門のレファレンスカウンターをつくる ■ 小さいころから利用者カードをつくることできる 学ぶだけでなく、学んだことを活かせる仕組みがある ■ 研究発表会など、図書館で学んだことを活かすしかけがある ■ 図書館の本で得た知識を発揮できる場がある ■ 図書に関わる様々な人たちが交流できる“連合文化祭”のようなものがある（◎×1枚、●×3枚） ■ 中高生向けのイベントを開催したり、同好会をつくる ■ 世界が広がる、ふとした身近な場所 図書館とその他の公共施設がさらに連携する ■ 図書館と市民館の連携が強化されている ■ 文化施設との融合で文化の発信力を強化する（●×1枚） ■ スポーツ施設と併設、連携 ■ 市民館・図書館で統一したテーマで連携イベントを開催する 子どもから高齢者までが関わり合えるきっかけを生み出す ■ 子どもとシニアが連携してイベントをする ■ 子どもが大人に読み聞かせをする 地域の人材・資源を活かす取り組みがある ■ 地域のことを知り、地域の“チカラ”を育む ■ 地元のちょっと有名な人からの本紹介 ■ 川崎市の「姉妹都市」はたくさんあるので、情報を網羅的に知りたい ■ 地域の人材・専門家を招いて地域の現状を知るトークイベントをより多くの人にライブ配信（●×3枚） ■ 人と話すきっかけとなる図書館（●×1枚）

テーマ③将来像を実現するために必要なこと・アイデア

■ 移動図書館をお試して実施する

- ・単発的に移動図書館イベントを実施してみる

■ 地域の各拠点や移動車で図書館の本が読めるようにする

- ・移動図書館（車）を増やす
- ・天候に左右されないようにする。今は1台しかない
- ・小回りの利く移動図書館をつくることで、いろんな所に出張できるようにする
- ・移動車でも現場の職員の一存で寄付本の受け取りができるようにする
- ・「こんな本がほしい」と、寄付でほしい本を指定する
- ・既存の施設を活用する！！
- ・1冊しかない本だと、拠点に設置した図書室で長期間の貸出しができないため、同じ本を増やす
- ・図書館はベストセラーを読むところではなく、知識を集めるところだとイメージを変えてもらうことで、本が足りない現象を解決する

■ 小さな規模でいいので、まちのあちこちに図書館の本を置く

- ・館の数が足りないので、情報コーナー等の一角などにも図書館の本を置く

■ 地域開放図書館をさらに活用する

- ・地域開放図書館をもっと活用する

■ 資格・仕事・進路コーナーを設置する

- ・資格や仕事、進路に関する本を紹介するコーナーを設ける
- ・既存の資料や書籍を活用して1箇所にとまとめ、わかりやすくする
- ・ハローワークや大学と連携して、試験日のカレンダー掲示などを通じて情報を提供する

■ 中高生向けのイベントや、図書館や図書に関わる人の交流を行う

- ・図書に関心のない人もファンにさせるイベントのネーミングをする
- ・夜の図書館（日中でもカーテンを閉めて電気を消すと暗くなる）で怖い話を聞く、天体観測をする、スタンブラリー、迷路などのイベントをする
- ・中身が見えないようにラッピングしてシニアから中高生へ福袋（本）を渡す
- ・図書館（市民館や多目的室）を貸し切ってイベントをする
- ・図書館探検会をする

■ 大人や中高生、活字が苦手な人向けの朗読カフェを開催する

- ・絵本など、堅苦しくない短編などを読む
- ・地域の駆け出しの声優さんなどに読んでもらい、ワクワクする
- ・コーヒーを飲みながら、交流できるしかけをつくる

■ まちで読み聞かせなどのイベントを実施して本に触れる機会をたくさんつくる

- ・まち協（公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会）、市民団体と連携して、本を中立ちにした交流の活動を実施する。市民イベントでの PR や、読み聞かせなど本にふれる機会を創出する
- ・商店街×読み聞かせ（子ども対象 子ども→大人も来る）をまちかどで実施する
- ・様々な読み聞かせのイベントを図書館の内外で PR する
- ・本の交換会も行う

■ 映画を上映する

- ・多様な目的をつくるために映画を上映する

■ 図書館の提供する様々なサービスの認知度を向上させる

- ・虫眼鏡レンタルや、意見箱の設置などさまざまなサービスがあることを、十分に知られ、活用されるようにする
- ・チラシなどを、つい読みたくなるおしゃれなデザインにする
- ・図書館の案内チラシを学校で配る際に、内容について紹介しながら渡すことで興味をもってもらえるように、担当の先生にしっかり内容のポイントなどを伝える
- ・紙だけの PR ではなく、分かりやすい ICT サービスを検討する
- ・チラシに URL や QR コードを記載して、インターネットでも簡単に読めるように工夫する
- ・SNS や Youtube を活用し、お勧めの本を紹介する動画を配信する
- ・来館者が話しかけやすいように、カウンターのスタッフは笑顔で対応する

■ 利用者にあわせて利用のルールづけをする

- ・勉強スペースを分けるなどレイアウトを変える
- ・テスト期間は、勉強スペースを増やすために他の施設の会議室等を活用する
- ・基本はおしゃべり OK で、集中スペースもつくる→考え方を逆にする！！

■ 静かに過ごす場所と話ができる場所とをゾーニングや時間帯などでルールづけする

- ・BGM が流れているときには話しても良いなど、時間を限定して話をしても良いルールをつくる
- ・地域ごとに館の特性を考えて、声出し OK の時間を決める
- ・カウンター周りは話をしても良いことにする
- ・クラシックなどの BGM が流れている場所をつくる
- ・静かにするスペースとディスカッションするスペースを書架で区切る
- ・部屋がもうひとつあれば可能性が広がるので、他の公共施設の利活用など、課を横断して協力、連携が必要
- ・静かに読みたいという人にも配慮する

■ ボランティアスタッフのレベルアップのため、研修・養成講座を開く

- ・司書資格のあるボランティアを募集する
- ・図書館のサービスについて説明するレベルの高いボランティアスタッフをつけるため、研修・養成講座を設ける

■ ホームページや蔵書検索システムをわかりやすくリニューアルする

- ・ ホームページが感覚的に分かりにくいので、分かりやすくする
- ・ 蔵書検索をもっと感覚的にできるようにする。web チャットプラスを使う

みんなで図書館の未来を考えよう

かわさきの図書館 アイデアミーティング 開催報告



「かわさきの図書館アイデアミーティング（全2回）」を開催しました！

川崎市では、社会状況の変化や市民ニーズの多様化に的確に対応できるよう、「今後の図書館のあり方」の策定に向けた取組を進めています。このアイデアミーティングは、市民の皆さまから広くご意見・アイデアを伺うために開催したもので、第1回は20人、第2回は24人の方にご参加いただきました。

第1回 令和元(2019)年12月1日(日)開催

川崎市の図書館の「良いところ」
「気になるところ」を出し合おう

第2回 令和元(2019)年12月22日(日)開催

ミライのかわさき図書館の将来像を
深めよう



参加者と一緒に
図書館職員も
意見交換しました



市内の高校生も
参加してくれました

ミライのかわさき図書館の実現に向けて こんなことできたらいいな！できるかも！

2回目のアイデアミーティングでは、将来像を実現するための具体的な取組・アイデアも出し合いました。その一部をご紹介します。

まちのあちこちに図書館サービスが！

- ・移動図書館をお試して実施する
- ・地域の各拠点や移動車で図書館の本が読めるようにする
- ・小さな規模でもいいので、まちのあちこちに図書館の本を置く
- ・地域開放図書館をさらに活用する



ゾーニングやタイムシェアの工夫 で使い方やルールを柔軟に

- ・利用者にあわせてスペースの使い分けをする
- ・静かに過ごす場所と話ができる場所とをゾーニングや時間帯などでルールづけする



読書離れを食い止める 中高生向けのイベントを開催！

- ・中高生向けのイベントやイベントを開催する図書館や図書に関わる人の交流
- ・大人や中高生、活字が苦手な人向けの朗読カフェを開催する
- ・まちで読み聞かせなどのイベントを実施して本に触れる機会をたくさんつくる
- ・映画を上映する



「図書館ってこんなに便利」 行っているサービスをもっとアピール！

- ・図書館で提供する様々なサービスの認知度を向上させる

仕事や資格などに役立つ コーナーを拡充

- ・資格・仕事・進路コーナーを設置する



ボランティアスタッフの レベルアップ研修・講座を開く

- ・ボランティアスタッフのレベルアップのため、研修・養成講座を開く



感覚的に使いやすい検索システムや ホームページにリニューアル

- ・ホームページや蔵書検索システムをわかりやすくリニューアルする

「今後の図書館のあり方」の策定に向けた今後の予定

「今後の図書館のあり方」は、市民の皆さまのご意見をお伺いしながら、令和3(2021)年3月頃の策定に向けて、検討を進めていきます。

令和元(2019)年度

令和2(2020)年度

図書館について市民意見を聴取

今年度の市民意見聴取の方法

- ・図書館利用者アンケートの実施
- ・市民アンケートの実施
- ・アイデアミーティングの開催など

12月頃

今後の図書館のあり方(案)

令和3(2021)年1月頃

パブリックコメント
手続の実施

令和3(2021)年3月頃

今後の図書館のあり方策定

問合せ
発行元

〒210-0004 川崎市川崎区宮本町6番地 明治安田生命川崎ビル3階
川崎市教育委員会事務局 生涯学習部 生涯学習推進課
電話:044-200-3303 FAX:044-200-3950

川崎市の図書館の「良いところ」と「気になるところ」

1回目のアイデアミーティングでは、現在の川崎市の図書館の「良いところ」「気になるところ」を出し合いました。参加者ごとに普段利用している図書館も違う中、アクセス性や蔵書数、施設などについて、多様なご意見をいただきました。また、出し合ったご意見をもとに、期待する取組についても考えていただきました。

施設・アクセス

- ◆アクセス性が高く、身近に感じられる
- ◆アクセス性や周辺環境が整っていない館もある
- ◆需要に対して、閲覧席の数が足りない
- ◆空調や照明などの環境が整っていない
- ◆ベビーカーや車椅子が通りづらい
- ◆みんなで学べたり、ちょっと利用できたりする作業スペースがない

企画・情報発信

- ◆様々な特集やイベントがある
- ◆本に触れたり新しい発見ができる見せ方の工夫がある
- ◆全市の図書館同士の連携がなく、イベントなどの情報発信が弱い

子ども・若者

- ◆人と出会える
- ◆子ども向けの本・場・サービスが充実している
- ◆静かすぎるので子どもや学生は足が遠のいてしまう
- ◆若い人向けの本やCDが少ない

蔵書

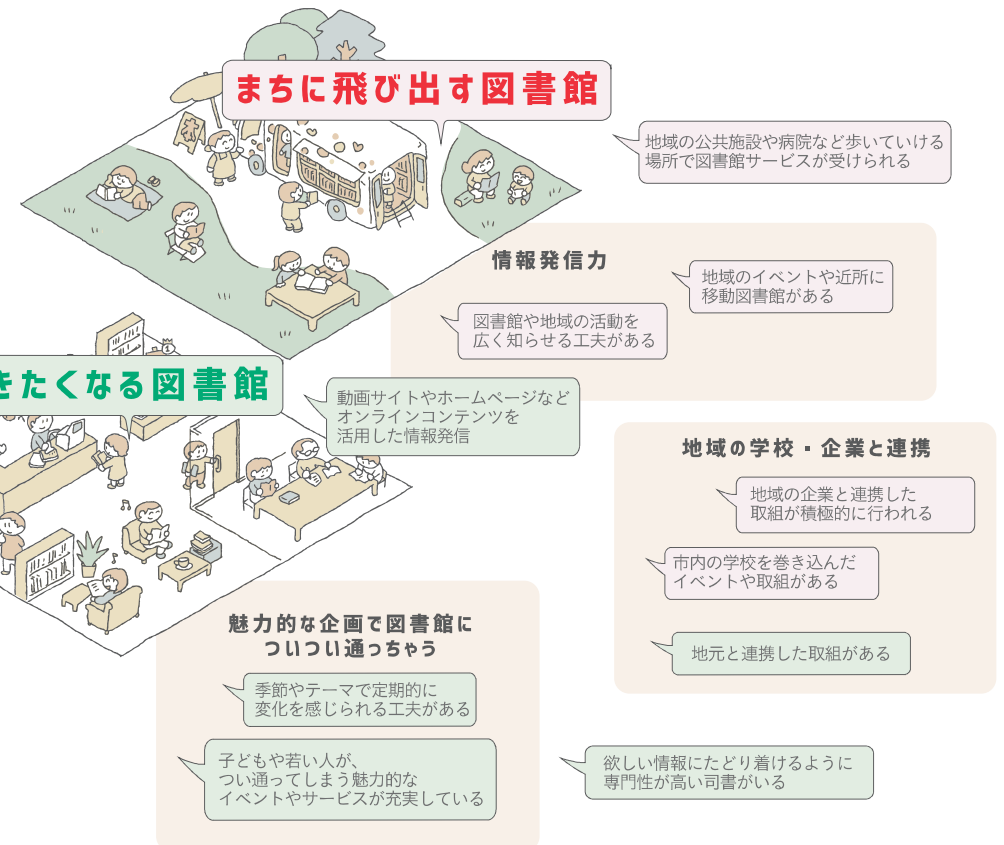
- ◆多様なジャンルの資料が充実している
- ◆蔵書数や種類が少ない
- ◆開架スペースが足りないため、よく使う本も書庫に入ってしまった

サービスなど

- ◆システムが充実していて使いやすい
- ◆貸出冊数が多い
- ◆市民ニーズに合わせて開館時間が延長されてきた
- ◆大学との連携でより専門的なサービスが受けられる
- ◆1人あたりの貸出や予約冊数が少ない
- ◆ホームページやICTサービスがまだ十分でない
- ◆土日の開館時間が短い
- ◆予約待ちが長すぎる
- ◆様々な利用者を念頭に置いたサービスが十分でない

ミライのかわさき図書館の将来像に関するご意見・アイデア

2回目のアイデアミーティングでは、1回目に寄せられたご意見をもとに、「行きたくなる図書館」「まちに飛び出す図書館」「地域の“チカラ”を育む図書館」を3つの大きな方向性として、川崎市の図書館の将来像についてご意見・アイデアをいただきました。



川崎の図書館ともの会 ヒアリング結果

令和元年 9 月 3 日 午後 2 時～

麻生図書館 集会室

出席：川崎の図書館ともの会 4 名

米井、関（生涯学習推進課） 記録：関

1 「(仮称) 今後の市民館・図書館のあり方」の検討について

生涯学習推進課から、資料に基づいて説明した。

【団体からの質問】

- ・市民館と図書館を一緒に考えるのか？
⇒現在のところ、それぞれで考えている。
- ・(目指す方向性の内容について)「事業」とは何を指すのか？
⇒市民館でいうと、貸館事業と社会教育事業がある。
- ・(想定スケジュールのうち、市民意見聴取について) 今実施している図書館利用者アンケートは、館によって実施日が違うのか？
⇒基本的には、来館した日に実施していれば、回答してもらっている。
- ・何人程度に行うのか？
⇒2,000 人を目指している。
- ・(団体からの市民意見聴取について) 何件(団体)程度から聞くか？全館で聞くか？
⇒既に決まっているのは、ともの会を入れて 2 件。全館からは挙がらないかもしれないが、呼びかけていく。
- ・ぜひ、全館で、団体の声を聞いて欲しい。
- ・個人からの意見は聞かないのか？今は利用者懇談会を開催していないが、必要ではないか？

2 現図書館の良い点

【団体からの意見】

- ・近隣の他自治体及び大学との連携や相互利用は、よい取り組みである。
- ・学校図書館システムとの連携はよいが、学社連携の要員を図書館に置くことが必要である。
子どもの教育には教育委員会として力を入れて欲しいが、そのための人員が足りない。
- ・子育て支援コーナー、認知症コーナーなどの設置は、よい取り組みである。地域の図書館らしさを各区で出して、こういった取り組みを進めて欲しい。また、各区で身近なテーマに沿った講演会、講座などを行ってもよいのではないかな。そのためにも職員を増やすべきだ。
- ・資料の分担収集など、利用者に知られていないことが多い。
- ・広報の仕方などについて、市政だよりの活用などもっと工夫した方がよい。
- ・利用者と職員が面と向かって話せる、利用者懇談会を設けてほしい。その中で、利用者からも意見やアイデアを出せる。

3 図書館との関わり方で感じていること

【団体からの意見】

- ・一般の市民と継続的に接触する機会を作って欲しい。
- ・信頼関係を作り、図書館を支えたいが、図書館がどう考えているか見えにくい。一緒にやりたいと考えている。
- ・図書館職員が忙しそうで、気軽に声をかけづらい。ボランティアとして相談に行く際に気を遣ってしまう。

4 その他

- ・指定管理の話もあるが、職員には、経験を積み、継続して図書館で仕事をしてもらいたい。やりたいことを実現するためには、職員がきちんと業者の指導をする必要があり、現在の図書館ではそれができるとは思えない。
- ・鷺沼に移転すると、規模はどうなるのか？

⇒同規模程度と聞いている。

- ・社会教育費に充てる市の予算が減っているのではないかな？

⇒市の事業全体にシーリングがかかっているが、社会教育のみに厳しいわけではない。

- ・鎌倉市では、市民の寄付による図書館振興基金を実施しているという情報もある。（下記参照。）

・

職員を増やすべきだ。

- ・図書館としてボランティアをどう考えているのか知りたい。

【備考】ヒアリングの中で挙げた事項については、10月初めに発行する機関誌に掲載したいとのこと。記載内容については、事前に生涯学習推進課に提示される。

○鎌倉市図書館振興基金条例

平成23年10月20日

条例第13号

鎌倉市図書館振興基金条例

（趣旨及び設置）

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第241条第1項の規定に基づき、本市の郷土資料をはじめとする貴重な図書館資料の収集、保存及び保管並びにそれに要する図書館設備の充実その他の図書館事業（以下「事業」という。）の振興を図るための財源に充てるため、鎌倉市図書館振興基金（以下「基金」という。）を設置し、その管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（積立て）

第2条 基金への積立金は、事業に賛同して寄せられた寄附金その他の収入金をもって充てる。

川崎の文化と図書館を発展させる会 ヒアリング結果

令和元年9月20日（金） 午後3時～

第4庁舎第2会議室

出席：川崎の文化と図書館を発展させる会 7名

米井、関（生涯学習推進課） 記録：関

1 「(仮称) 今後の市民館・図書館のあり方」の検討について

生涯学習推進課から、資料に基づいて説明した。

2 団体からの質問、意見

- ・なぜ、このタイミングなのか？図書館を市長部局に移管することはないか？
- ・図書館や市民館を単なる施設としてではなく、教育機関として考えているか？
⇒（推進課）市長部局に移管する予定はない。市民館については、振興事業は補助執行というかたちをとっている。
- ・今の市民ニーズに「対応した」あり方とはどういうことか？来館者数の減少が見られるなら、その原因をきちんと追究し、望ましい図書館のあり方を考えるべきだ。
⇒（推進課）そういったことをとらえようと、アンケート等を実施している。
- ・新しいことをする前に、本来の基本的な図書館機能を充実するべきだ。例えば現在のゆったり本の閲覧もできない状況を改善し、また、窓口での顔のわかる対応など、人間のかおりがする雰囲気図書館にするべきで、そのためには経験のある正規の司書が必要である。現状では、委託業者には、そういったことができておらず、職員は忙しいため声をかけづらい。また、資料費も不足している。
- ・県立川崎図書館が移転し、川崎区で理工系の専門書を調べる図書館がなくなって不便という声が市民から出ている。資料数が絶対的に少ないこともあるが、図書館としてのグレードを上げることも必要だ。市と県の図書館間の連携調整がもっとあっても良かったと思うが、県立川崎図書館は、ものづくり専門図書館として重点をしぼってしまった。川崎市は政令指定都市でもあるので、県立川崎図書館の専門部門をフォローする点で、市の図書館の内1館が、理工系の専門書を中心とした図書館にシフトすることがあってもいいのではないかと？各区の図書館がそれぞれ、地域の特徴を活かしたコレクションを持ち、専門化する時期にきているのではないかと思う。
- ・川崎市立図書館の資料費や専門職員は政令指定都市の中でも低いレベルにある。
- ・「若者をターゲットにした仕掛け」とあるが、興味や関心の多様化が見られる中で、各区の図書館の魅力あるコレクションを宣伝する必要がある。また、それをパンフレットにするとよい。子どもは、新しい本が充実していないと図書館を利用しないのではないかと。
- ・「子どもの権利」「ヘイト問題」など、今の川崎を考えるテーマの企画展示やシンポジウムを図書館で実施したり、教科書問題など関連テーマを各館が持っている資料で紹介したり豊富な資料の提供や発信を常に心がけて欲しい。
- ・ICT活用など高度なサービスを考える前に、高齢者が気軽に知識を得られる居場所としてのあり方も大切にしたい。

- ・図書館での読書会から生まれた読書サークルが市民館で活動するなど、市民館との連携にも配慮し、生活空間の中に居場所としてあって欲しい。
- ・フレーズとして「これからの図書館像を考える」とし、(庁内検討会議だけでなく)検討会議には市民も入れて欲しい。学識を入れるのもよいが、公募市民が半数程度を占める会議とし、結論のみでなく、経過を市民にオープンにするべきである。
- ・市民の意見聴取をきちんと行うならば、あり方の検討は1年でできるものではなく、もっと時間をかけるべき。
⇒(推進課)あり方は、2年間かけて検討する。今年度は、アンケートやワークショップ、団体からのヒアリング等で広く情報を集め、来年度にはパブリックコメントも実施する。
- ・図書館ごとに友の会を作る、読み聞かせ指導者の講習会を開く、読書セミナーや読書会を開催し、市政だより等で広報するなどの取組が考えられる。
- ・いろいろなニーズに対応するためには、職員数やスペースが必要である。
- ・ハンディのある人へのサービスも充実する必要がある。
- ・民間委託や指定管理については、よく検証する必要がある。
⇒(推進課)現段階で指定管理が悪だと考えてはいない。既に指定管理を入れている図書館、直営に戻した図書館があることを知っている。しっかり状況等を調べて判断すべきである。
⇒民間には委託しないで欲しい。
- ・小規模でよいので、歩いて行けるとところに数多くの図書館が必要である。現状の各区の地区館でも遠いと感じる市民が居る。
⇒(推進課)こども文化センター(以下「こ文」)の図書室を活用するのはどうか？
⇒こ文に司書を置き、図書館とネットワーク化して、利用者の要求を吸い上げられるならよい。
- ・市で「これからのコミュニティ施策のあり方」を作るとき、図書館はどれだけ関わったか？ソーシャルデザインセンターと図書館との関係性は？
⇒(推進課)ソーシャルデザインセンターについては、まだ見えていないが、図書館との関係性については考えていきたい。
- ・何かを実施する際には、市民に情報を出し、市民と一緒に考えるべきである。いきなり新聞等で発表されるようなことがあると、一つの区に関わることで、全市に波及するように見える。例えば、宮前図書館の鷺沼駅前への移転も、これまでに宮前図書館で育ったものが失われるため反対であるし、同様のことが全区であるのではないかと懸念される。

「(仮称)今後の市民館・図書館のあり方」の検討について

【現状と課題】

- 国の動向
 - ・「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」を改正〔平成 24（2012）年度〕
⇒運営方針策定を市の努力義務化
 - ・中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」〔平成 30（2018）年度〕
⇒社会教育のあり方として、「多様な主体との連携・協働」の推進、
「多様な人材の幅広い活躍」の促進
- 市の動向
 - ・「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」の策定〔平成 30（2018）年度〕
 - ・教育文化会館及び労働会館の再編整備
 - ・宮前市民館・図書館の鷺沼駅周辺への移転・整備



社会状況の変化や市民ニーズの多様化に的確に対応した、「(仮称)今後の市民館・図書館のあり方」をとりまとめ、市民館事業、図書館サービス等の進展を目指す。

【目指す方向性】

市民館

地域の生涯学習の拠点であり続けるとともに、社会教育事業を地域においても展開し、地域活動の担い手となる市民を発掘・育成することにより、様々な主体が学びの支援者として活躍する地域づくりを目指す。

図書館

図書資料等の「収集」「保存」「提供」という図書館の基本機能を充実・活用できるよう、効果的なサービス方法等を検討するとともに、「知と情報の拠点」としての図書館のチカラを地域や市民に役立てることを目指す。

市民館・図書館ともに必要な視点

来館・事業参加へのキッカケづくり
若者をターゲットにした仕掛けの検討 等

【想定スケジュール】

- | | |
|-------------|--|
| 令和元（2019）年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・庁内検討委員会の立ち上げ ・図書館のあり方に関する市民意見聴取 |
| 令和2（2020）年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民館のあり方に関する市民意見聴取 ・「今後の市民館・図書館のあり方(案)」とりまとめ ・パブリックコメント手続きの実施 ・「今後の市民館・図書館のあり方」策定 |

人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について (答申) 概要

第1部 今後の地域における社会教育の在り方

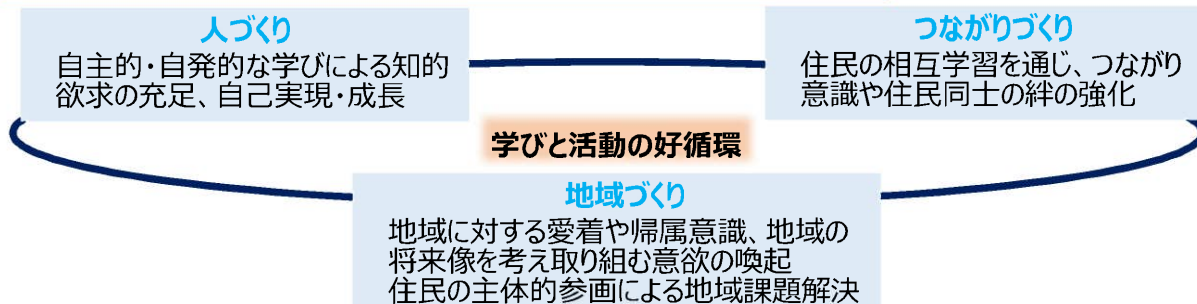
＜地域における社会教育の目指すもの＞

1. 地域における社会教育の意義と果たすべき役割～「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり～

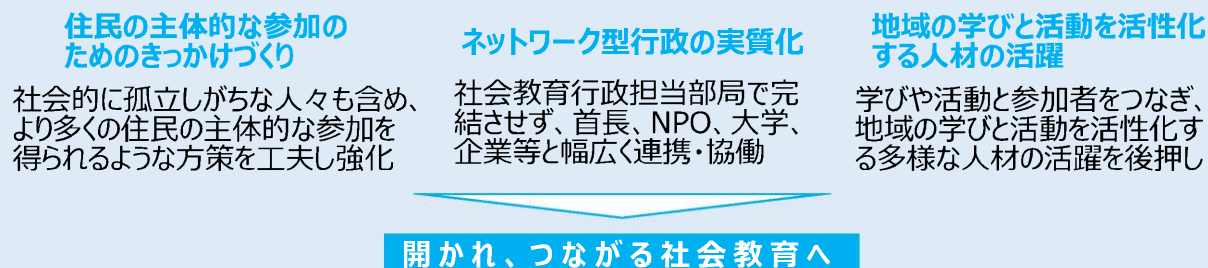
多様化し複雑化する課題と社会の変化への対応の要請

- ・人口減少、高齢化、グローバル化、貧困、つながりの希薄化、社会的孤立、地方財政の悪化、SDGsに向けた取組 等
⇒ 持続可能な社会づくりを進めるために、住民自らが担い手として地域運営に主体的に関わっていくことが重要
- ・人生100年時代の到来、Society5.0実現の提唱 等
⇒ 誰もが生涯にわたる必要な学習を行い、その成果を生かすことのできる生涯学習社会の実現に向けた取組が必要

社会教育：個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割



2. 新たな社会教育の方向性～開かれ、つながる社会教育の実現～



＜「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けた具体的な方策＞

1. 学びへの参加のきっかけづくりの推進

- ・楽しさをベースとした学びや地域防災、健康長寿など、関心の高い学び等、学びや活動のきっかけづくりを工夫
- ・子供・若者の参画を促し、地域との関わりや動機付けとなり得る成功体験づくり
- ・社会で孤立しがちな人に対して、福祉部局等との連携により、アウトリーチの取組を強化
- ・各地における具体的な取組の収集・共有、地域における活動の事例分析と周知

2. 多様な主体との連携・協働の推進

- ・首長部局との連携を効果的に図るため、総合教育会議の活用や、部局間の人事交流を推進
- ・NPO、企業、大学等と行政関係者との積極的な意見交換や協議
- ・地域学校協働活動を核にした社会教育と学校教育の一層の連携・協働

3. 多様な人材の幅広い活躍の促進

- ・地域の課題解決等に熱意を持って取り組む多様な人材を社会教育の活動に巻き込み、連携
- ・教育委員会における社会教育主事の確実な配置、多様な主体による「社会教育士」の取得推奨

4. 社会教育の基盤整備と多様な資金調達手法の活用等

- ・各地方公共団体における十分な社会教育費の確保を含めた基盤整備
- ・クラウドファンディング等の多様な資金調達手法の活用

第2部 今後の社会教育施設の在り方

＜今後の社会教育施設に求められる役割＞

社会教育施設には、地域の学習拠点としての役割に加え、以下のような役割も期待。

- ・公民館：地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割、地域の防災拠点
- ・図書館：他部局と連携した個人のスキルアップや就業等の支援、住民のニーズに対応できる情報拠点
- ・博物館：学校における学習内容に即した展示・教育事業の実施、観光振興や国際交流の拠点

＜今後の社会教育施設の所管の在り方＞

このような中、地方公共団体から、地方公共団体の判断により、地方公共団体の長が公立社会教育施設を所管することができる仕組み（以下「特例」という。）を導入すべきとの意見が提出。これについて検討し、必要な措置を講ずる必要（「平成29年の地方からの提案等に関する対応方針」（平成29年12月26日閣議決定））。



生涯学習社会の実現に向けた横断的・総合的な教育行政の展開に向け、社会教育に関する事務については今後とも教育委員会の所管を基本とすべき。

一方、地方の実情等を踏まえ、より効果的と判断される場合には、地方公共団体の判断により地方公共団体の長が公立社会教育施設を所管できる特例を設けることについて、社会教育の適切な実施の確保に関する制度的担保が行われることを条件に、可とすべき。

◆ 特例を設けることについて

（他行政分野との一体的運営による質の高い行政の実現の可能性）

- ・社会教育施設の事業と、まちづくりや観光等の他の行政分野の社会教育に関連する事業等とを一体的に推進することで、より充実したサービス等を実現できる可能性。
- ・福祉、労働、産業、観光、まちづくり、青少年健全育成等の他の行政分野における人的・物的資源や専門知識、ノウハウ、ネットワーク等の活用により、社会教育行政全体を活性化できる可能性。
- ・社会教育の新たな担い手として、まちづくりや課題解決に熱意を持って取り組んでいるがこれまで社会教育と関わりがなかった人材を育成・発掘できる可能性。

（施設の効果的・効率的な整備・運営の可能性）

- ・首長部局が中心となって行っている社会資本整備計画等を通じた施設の戦略的な整備や、様々な分野が複合した施設の所管を一元化することによる、当該施設の効率的な運営の可能性。

◆ 社会教育の適切な実施の確保の在り方について

同時に、社会教育の適切な実施の確保（政治的中立性の確保、住民の意向の反映、社会教育施設としての専門性の確保、社会教育と学校教育の連携等）のためには、本件特例を設けるに当たり、教育委員会による関与など一定の担保措置※を講ずる必要がある。

※担保措置については、例えば、地方公共団体において所管の特例についての条例を定める際に、教育委員会の意見を聴くこととする、といった例が議論されたが、具体的な在り方については、国において、法制化のプロセスにおいて具体的に検討すべき。

◆ 地方公共団体において特例措置を活用する場合に留意が求められる点

- ・特例が活用される場合でも、当該施設は引き続き社会教育施設であり、法令の規定を踏まえた専門的職員の配置・研修、運営審議会等を活用した評価・情報発信等が重要。
- ・教育委員会は社会教育振興の牽引役として引き続き積極的な役割を果たしていくことが重要（総合教育会議等の活用、首長部局やNPO等との連携・調整等）。地方行政全体の中に、社会教育を基盤とした、学びを通じた人づくり・つながりづくり・地域づくりの視点を明確に組み込んでいくことが重要。